

## 「令和3年度多治見市資金運用実績」の公表について（報告）

### 1. はじめに

会計管理者は、毎年度の歳計現金、歳入歳出外現金及び基金積立金の保管と運用を行っており、「多治見市資金管理運用方針」に基づき令和3年度の運用実績を公表するもの。

### 2. 歳計現金・歳計外現金の管理運用実績

会計管理者が管理する現金は、日々の支払いに充てる「歳計現金」と市県民税や職員の所得税、保険料などを一時的に預かっている「歳計外現金」がある。

通常は決済性預金で保管をしているが、すぐに支払いを行わない資金については1年未満の定期預金で運用を行っている。

令和3年度の運用実績は以下のとおりである。

表1 歳計現金及び歳計外現金の保管、運用実績

区分		現金残高	決済性預金(注1)	定期預金
平均月末残高	R元	5,565,752千円	3,690,752千円	1,875,000千円
	R2	5,873,016千円	3,998,016千円	1,875,000千円
	<b>R3</b>	<b>5,629,487千円</b>	<b>3,754,487千円</b>	<b>1,875,000千円</b>
年間利子額	R元	1,879千円	—	1,879千円
	R2	2,530千円	—	2,530千円
	<b>R3</b>	<b>751千円</b>	<b>—</b>	<b>751千円</b>
平均年間利率	R元	0.034%	—	0.100%
	R2	0.043%	—	0.135%
	<b>R3</b>	<b>0.013%</b>	<b>—</b>	<b>0.040%</b>

※(注1) 決済性預金は、全額保全される代わりに利子が付かない預金(基金も同様)

### 3. 基金の管理運用実績

本市では、現在36の基金を設置しており、これらの基金の現在高は、256億円程となっている。

基金の現金は決済性預金で保管を行い、当面基金を取り崩す予定のない部分については、定期預金及び債券(国債・地方債・政府保証債)で運用を行っている。

令和3年度中の運用実績は、以下のとおりである。

表2 基金の保管、運用実績

区分		基金全体	決済性預金	定期預金	債券
平均月末残高	R元	25,282,989千円	2,841,380千円	18,745,882千円	3,695,728千円
	R2	25,582,042千円	3,742,058千円	18,095,327千円	3,744,657千円
	<b>R3</b>	<b>25,834,740千円</b>	<b>4,357,299千円</b>	<b>17,658,228千円</b>	<b>3,819,213千円</b>
年間利子額	R元	53,739千円	—	31,363千円	22,376千円
	R2	48,767千円	—	25,528千円	23,239千円
	<b>R3</b>	<b>47,837千円</b>	<b>—</b>	<b>23,858千円</b>	<b>23,979千円</b>
平均年間利率	R元	0.213%	—	0.167%	0.606%
	R2	0.191%	—	0.141%	0.621%
	<b>R3</b>	<b>0.185%</b>	<b>—</b>	<b>0.135%</b>	<b>0.6281%</b>

#### 4. まとめ

- 歳計現金及び歳計外現金については、引き続き基金の繰替運用を活用しながら定期預金の預入金額の確保に努めてきている。預金利率が低い中でも効率的な運用に努めたが、年間利子額は対前年度177万9千円(▲70.3%)の減少となった。
- 基金については、平均月末残高は258億3,474万円で前年度から2億5,270万円の増加(+1.0%)となり、年間利子額は4,784万円と対前年度930万円の増加(+1.9%)となった。  
ただし、日本銀行の金融緩和政策等が継続され定期預金の利率も極めて低く、定期預金の利子額が対前年度167万円の減少(▲6.5%)となった。
- 継続される金融緩和政策等により、運用益の確保がたいへん厳しい状況が続くものと見込まれる中で、定期預金の運用はもとより債券の効率的な運用も含めて、資金管理運用方針にのっとり、今後も确实かつ有利な資金運用に向けた検討と実践に努めていく。
- なお、日本銀行のマイナス金利政策等により、地方銀行をはじめとした金融機関の経営合理化も著しく、これまで無料であったサービスに対して有料化への動きが顕著となってきた。